

台湾総督府警察官及司獄官練習所歌覚書—「椰子の実みのる」及び「彩雲めぐる」をめぐって(再訂稿)— 一日本統治下台湾警察史の一齣—

平成 15(2003)年 11 月 1 日初稿作成

HP 初出: 平成 19(2007)年 8 月 6 日改訂稿作成

平成 23(2011)年 9 月 7 日(水)再訂稿作成
(今般事情あって HP 輻輳せしことにより、更に改訂の上再生したが、直前掲載稿との関係不詳。)

(前註)

本稿は、最初「台湾総督府警察官及司獄官練習所所歌一斑—「椰子の実みのる」をめぐって—」として、『台湾協会報』第 594 号(平成 16 年 3 月 15 日刊)に掲載し、その後、「「椰子の実みのる」をめぐって—台湾総督府警察官及司獄官練習所歌覚書—」と改題の上、一、二改訂を施し、『鷺巣敦哉とその時代(続集〈写真・資料篇〉—日本統治下台湾警察史雑纂』第五輯—)(平成 15〈2003〉年 11 月 1 日刊)に収録したものに、更に、再度改題し、補訂を加えつつあるものである。

なお、本 HP 収録の別稿「澤村胡夷と台湾警察歌—日本統治下台湾警察史の一齣—」¹の続稿的性格を有する。現在では、「台湾警察歌」、「椰子の実みのる」及び「彩雲めぐる」の三曲とも、台湾の HP「古い記憶のメロディー」中の「台湾の校歌其他」〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉で、メロディーを聴くことができる。

〔目 次〕

- 1 はじめに ……………2
- 2 『鷺巣敦哉著作集』I(緑蔭書房、平成 12 年 12 月 10 日刊)及び別巻(同、平成 14 年 1 月 31 日刊)解説に誌したこと ……………2
- 3 制定経緯 ……………4
- 4 「椰子の実みのる」の歌詞 ……………5
- 5 「椰子の実みのる」の曲譜 ……………6

¹ 〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawamura001.pdf>〉。なお、同じく本 HP 別稿「再び澤村胡夷作詞「台湾警察歌」及び「サヨンの鐘」について—日本統治下台湾警察史の一齣—」をも参照 〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/futatabi.pdf>〉。(平成 23 年 9 月 7 日追加)

6 「彩雲めぐる」の歌詞と曲譜	6
(附録)「椰子の実みのる」曲譜	7(省略)

1 はじめに

日本統治下台湾警察関係の歌で戦後の旧各州警友会²(警友会について『日本統治下台湾警察史雑纂』第四輯〈平成15年8月1日刊、以下『第四輯』という。〉100頁以下、同第五輯56頁以下)の会合で最も歌われたのは、台湾総督府警察官及司獄官練習所(以下「練習所」。)所歌の「椰子の実みのる」(昭和2年制定)である。練習所歌には、所歌「其の一」として「椰子の実みのる」、同「其の二」として「彩雲めぐる」があった(例えば『台湾の警察 昭和七年』〈台湾総督府警務局編、昭和7年12月30日刊〉参照。)が、昭和12(1937)年11月に練習所乙科第220期に入所、翌13年2月に同期を修了された小橋従道氏(1917~ [2009]、元新竹警友会副会長)によると、「後藤辰夫教官(? ~1978)が当直の時、夕方、八甲寮の前庭に古いオルガンを持ち出し一時間位歌唱指導をし」たものの、「彩雲めぐる」は当時も歌われず、戦後も話題になることはなかったとのことである。

加えて、警友会では、もとより澤村専太郎(胡夷、1884~1930)作詞、一條慎三郎(1870~1945)作曲の「台湾警察歌—雲ふきはらふ新高の」(昭和3年末制定)も歌われたようであるが、これは、やはり公的な歌で、多くの台湾警察出身者にとって、練習所で毎日歌った所歌の方がなじみ深かったのは、当然のことと思われる。この他、「警察招魂歌」(曲は「青葉茂れる」の譜)なるものもあった。

台湾警察歌については、「紅もゆる」³の沢村胡夷の作詞ということもあり、先に、「澤村胡夷と台湾警察歌」(『台湾協会報』第580号、平成15年1月15日刊)及び「一條慎三郎について—日本統治下台湾音楽史の一齣—」(『台湾協会報』第586号、平成15年7月15日刊)(いずれも『第四輯』94~99頁に再録。うち、前者については、本HPにも収録した⁴。)を物したが、「椰子の実みのる」についても、当時の警察関係者の方々でも既に制定経緯とか作曲のこと等が不明であったので、その際併せて少しく調べたところである。

以下では、これらを踏まえて、所歌「椰子の実みのる」及び「彩雲めぐる」について、知り得たことを一、二誌しておく。敢えて覚書と題した所以である。

2 『鷺巣敦哉著作集』I(緑蔭書房、平成12年12月10日刊)及び別巻(同、平成14年1月31日刊)解説に誌したこと

² <http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/keiyukai.pdf> (平成23年9月7日追加)

³ 「紅もゆる」: <http://www.youtube.com/watch?v=NhDEO2x8Zi8>

⁴ <http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawamura001.pdf>

(1) 『鷺巣敦哉著作集』 I 解説(15 頁)(『第四輯』 13 頁)

「⑤-2 台湾総督府警察官及司獄官練習所所歌

次に、練習所歌(⑤-2)は昭和 52 年(1977)9 月刊行の『台北州警友会員名簿(改訂版)』の巻頭より採録した。本名簿をお見せ下さったのは、終戦時には督府警務局に所属していた故山崎義秀(1904~1985。台北州出身、甲科第 37 回修了〈昭和 9 年〉)の令室山崎文氏(1912~〈2003〉)である、山崎氏からも多くの警察関係写真を拝見し得た。また、本所歌の曲譜も探したが、見付け得なかったため、小橋従道氏(1917~)にお願いして、昭和 60 年(1985)の新竹警友会高松大会の折に演奏用に作成したテープ(歌・元練習所教官湯川秀吉〈1904~1992。当時新竹警友会常任理事〉)から採譜された⁵のをここに掲載した(本輯『第四輯』のこと)では省略)。採譜者は小橋氏の女婿の小野晴久氏(武蔵野音楽大学卒)である。両氏の大変な御配慮に感謝の意を表す。

本所歌の他に、台湾警察関連歌としては、「警察招魂歌」(大正 8 年)及び「台湾警察歌」(昭和 3 年)がある(『沿革誌』V1187、1188 頁)。このうち後者の作詞が、時の京都帝国大学文学部助教授澤村専太郎(1884~1930、後に教授。昭和 5 年 5 月 23 日逝去。)、すなわち、「第三高等学校逍遙の歌」(紅もゆる)の作詞者澤村胡夷その人によることは極めて興味深い。なお、台湾警察歌の懸賞募集歌及び制定については、『台湾警察協会雑誌』第 137 号〈昭和 3 年 11 月 25 日刊〉130 頁以下、同第 139 号〈昭和 4 年 1 月 1 日刊〉12 頁以下参照⁶。]

(2) 『鷺巣敦哉著作集』 別巻解説(477 頁)(『第四輯』 69、70 頁)

「(14) (参考資料 5) 「台湾警察関係歌」 (昭和 7 年)

いずれも、『台警』II(『台湾の警察』〈昭和七年〉)より採録した。「台湾警察歌」、「警察招魂歌」については、『沿革誌』V1187、1188 頁に記載があり、I 解説 15 頁でも言及した。練習所歌中其の一「椰子の実みのる」は、I 口絵及び同解説 15 頁(第四輯 13 頁)で触れたが、一部に字句の異同がある。ただ、ここに採録したのは、『台警』IIのものであり、こちらの方が正しいものかと思われる。今回この曲が土井晩翠(1871~1952)の「星落秋風五丈原」の譜によるということ

⁵ 小橋従道「練習所所歌の楽譜」(『新竹警友会報』第 140 号、昭和 62 年 6 月 10 日刊)参照。

⁶ 澤村胡夷と台湾警察歌については、『鷺巣敦哉著作集』別巻(緑蔭書房、平成 14 年 1 月 31 日刊)464、477 頁以下、『第四輯』第 2 部 8(94 頁以下)「澤村胡夷と台湾警察歌」及び本 HP 別稿「澤村胡夷と台湾警察歌—日本統治下台湾警察史の一齣—」を参照。
(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/keiyukai.pdf>)

が判明したが、これについては、差し当たり『日本のうた 第一集 明治・大正』（野ばら社、平成 8 年 6 月 1 日刊）90 頁参照。なお、所歌其の二「彩雲めぐる」はあまり知られていないが、曲は一高寮歌「嗚呼玉杯」譜によるとのことであるので覚えやすい⁷。

また、「台湾警察歌」の歌詞は、同じく右 15 頁でも記したが、第三高等学校逍遥の歌「紅もゆる」の作詞者澤村専太郎(胡夷、1884~1930)によるものである。同氏については、澤村『日本絵画史の研究』（京都・星野書店、昭和 6 年 9 月 15 日）巻末の「著者小伝」参照⁸⁹。」

3 制定経緯

所歌其の一「椰子の実みのる」の制定経緯については前掲北沢 勇氏(?~1981、昭和 2 (1927) 年春練習所乙科入所)「練習所生活の思い出」『新竹警友会報』第 53 号(昭和 55 (1980) 年 3 月 10 日刊)が参考になるので、以下に、関係部分をそのまま転載しておく。所歌の制定経緯については、寡聞にして他の文献を知らない(当時の『台湾警察協会雑誌』は未見。)が、同稿の記述は極めて貴重である。文中の鈴木秀夫教官(1898~1986)は、明治 31(1898)年 7 月生まれ、愛知県出身、大正 12(1923)年東大法卒、同年台湾総督府に入り、督府の要職を歴任、昭和 18(1943)年に新竹州知事で退官しているが、練習所の奏任教官を 2 回勤め

⁷ 所歌の制定経緯については後掲北沢 勇(昭和 2 年春練習所乙科入所)「練習所生活の思い出」『新竹警友会報』第 53 号(昭和 55 年 3 月 10 日刊)が参考になる。

⁸ 澤村専太郎について大嶋知子氏(1944~)『沢村胡夷全詩集』（中央公論事業出版、昭和 42 年 3 月 3 日刊）、『神陵史—第三高等学校八十年史—』（三高同窓会、昭和 55 年 3 月 31 日刊）471 頁以下、台湾警察歌について『第四輯』第 2 部 8(94 頁以下)「澤村胡夷と台湾警察歌」各参照。なお、台湾警察歌は、その後、大嶋知子氏「『紅もゆる』の詩人沢村胡夷」（平成 14 年 9 月 18 日講演、『紅萌抄』別冊〈平成 15 年 3 月〈?〉〉刊に収録。）16、17 頁、海堀 昶氏(三高理科昭和 22 年卒、三高同窓会常勤理事)「澤村胡夷作詞の歌 新発見 台湾警察歌」（三高同窓会『会報』97 号、平成 15 年 3 月 31 日）10、11 頁及び高島俊男氏(1937~)『百年のことば お言葉ですが…^⑧』（文藝春秋、平成 16 年 2 月 25 日刊）258 頁等で紹介されている。

⁹ 「台湾警察歌」の作曲者一條慎三郎(1879~1945)については、「一條慎三郎について—日本統治下台湾音楽史の一齣—」『台湾協会報』第 586 号(平成 15 年 7 月 15 日刊)参照。同稿は、その後、『鷺巣敦哉とその時代〔特別収録〕：『鷺巣敦哉著作集』補遺続集(第一輯)—日本統治下台湾警察史雑纂第四輯—』（平成 15 (2003) 年 8 月 1 日刊)に再録。なお、近年、日本統治下台湾の音楽史研究が進み、一條についても関心が高まりつつあるが、例えば、旧台北第一師範学校同窓会報『芝山』第 15 号(平成 16 年 12 月 15 日刊)に、「一條慎三郎先生を偲ぶ」関係論稿 7 編が掲載されている。その後もいろいろあるようであるが、現在調査中である。(「その後も」以下：平成 23 年 9 月 6 日追加)

ており、ここは、最初の教官時(大正15年12月~昭和3年9月)のことである(鈴木氏については第五輯口絵16〈同32頁〉参照。)。なお、同稿によっても、「椰子の実みのる」の作詞者の氏名は、残念ながら不明であるが、おそらく過去に乙科の練習所生活を経験し、当時甲科か特科に在所していた方と思われる。

北沢 勇氏「練習所生活の思い出」抄

『新竹警友会報』第53号(昭和55〈1980〉年3月10日刊)

「昭和二〔1927〕年の春(中略)斯くして所内生活にも慣れてきた或る日、鈴木秀夫教官(巡査の卵をふ化して呉れた教官は母の感じ、部長¹⁰は父、知事は祖父の感が多分にある。何処で出会っても教官と呼び度くなり、八十に垂んとする老が「椰子の実みのる」と思はず口吟む所以もそこにあるのかも知れない)が全員を一堂に集合させ、「予てより募集した練習所歌の決定をしたい」と述べて二篇を取出し甲乙を付け難い作品である、曲は如何にするや既存の曲から選ぶか練習所歌とするからには、後世迄残るもの、新曲を募るもまた意義がある」と直ちに発言者(椰子の実 [ママ] の作者)あり「前から好きな歌がある、六節に仕上げたのもそれを願って」忽ち反論「いや高校校歌にもってこいの曲がある」と賛否両論、結局作者の意見通り決定、再び教官より「歌詞の字の入替を要望」つまり二番の歌の第五節〔「荷わん為と君知るや」を「知るや君」としては如何、斯くすることに依り、使命感をより強く表現する効果があると思う。とは是についても賛否両論、結局原作通りとなる。

他の一篇は、台湾の風光を稍具体的に織り込んだ所もあるものだったが、是に就ても意見百出、結局教官は「没するには惜い作品である。例のないことではあるが、副所歌としてどうも考えて見たらどうか」と云うことで、其の日は幕閉。併しこの方は後日になっても我々の口に乘ったことはない、此のやりとりを、黙して聞いて居た我々若輩は思った、「千軍万馬も物ともしないつわもの達の集りなのだナアと」

所歌制定以来半世紀余りを過した今、練習所は消ても歌は我等の脳裏を離れず、機会ある毎に歌われ、歌うことに依って我等の結束は益々固まり行今、是を制定された教官の胸に当時の思出が何時迄も漂い続けるであろう。」

4 「椰子の実みのる」の歌詞

歌詞は前掲『台湾の警察 昭和七年』に拠った。ルビも同書による。各警友会名簿、同会報等にも本歌が掲載されており、歌詞に若干の異同があるが、これ

¹⁰ 州警務部長のことを指すのか。

は、やはり以下によるべきであろう。

其の一、「椰子の実みのる」(「五丈原の譜」)

- 1、椰子の実みのる南瀛の 緑風薫る台北に
古色を誇る「海行かば みづく屍」の門柱
輝きのぼる旭日の 徽章(しるし)崇(け)高き練習所

- 2、晨(あした)の星に身を鍛え 夕の月に魂(たま)を練る
吾等が業(わざ)はやがてまた 治安化育を双肩に
担はんためと君知るや 使命は重し練習所

- 3、明治三十有一年 礎一度立ちてより
時ゆき人は変れども 希望(のぞみ)は永遠(とは)に高砂の
島の栄えと民の和を 理想は高し練習所

5 「椰子の実みのる」の曲譜

「椰子の実みのる」の曲は、土井晩翠作詞、作曲者不明「星落秋風五丈原」(ほしおつしゅうふうごじょうげん)の譜に拠るとのことであるので、上記小橋氏の採譜されたもの(本稿 2 〈1〉参照。)に基づき、「星落秋風五丈原」譜に同歌の歌詞を落としたものを、次頁(第五輯 98 頁。ただし、本 HP では省略。)に掲載した。ここでは、前掲『日本のうた 第一集明治・大正』(野ばら社、平成 8 年 6 月 1 日刊)90、91 頁を利用させていただいたが、現在では、ネットで「星落秋風五丈原」を検索すると、一部のサイトで曲自体を聴く事ができる¹¹。なお、「星落秋風五丈原」は、土井晩翠『天地有情』(博文館、明治 32 年 4 月刊、初出『帝国文学』明治 31 年刊)所載である。

その後、平成 18(2006)年に台湾の HP「古い記憶のメロディー」に、本歌及びメロディーが収録された (<<http://www.geocities.jp/abm168/>>)。

6 「彩雲めぐる」の歌詞と曲譜

所歌其の二である。上記北沢 勇氏の回想に見える「他の一篇」とは、おそらくこの歌を指すのであろう。歌詞は、同じく前掲『台湾の警察 昭和七年』に拠

¹¹ 例えば (<<http://www.biwa.ne.jp/~kebuta/MIDI/MIDI-htm/HoshiOtsuGojougen.htm>>) (平成 19 年 8 月 6 日閲覧)があったが、平成 23 年 9 月 6 日現在では開けない。現在では、下記参照。(<<http://www.youtube.com/watch?v=0ygkqq3DLGY>>) (平成 23 年 9 月 6 日一部補正)

った。ルビも同書による。曲は一高寮歌『嗚呼玉杯』とのことである¹²。

其の二、「彩雲めぐる」(嗚呼玉杯の譜)

- 1、彩雲めぐる大屯山 その秀麗の精を受け
淡水河畔の聖境に 破邪の剣を身に帯びて
不羈卓犖(たくらく)の青年が 誓ひ集(つど)ひし練習所
- 2、義憤の血潮胸に燃え 時と人とを論すべく
治安の理想を抱きつゝ 混濁の世にわれ起てば
妖雲散りて旭日の 光さえぎる雲もなし
- 3、時艱にして義を思ひ 濁世(だくせ)に節を偲ぶかな
よし世の浪は荒くとも 時習の力振ひなば
世路の難苦も物ならず 天魔の壁も何かある
- 4、八甲寮の健男児 虚声偽涙を外(よそ)にして
只真心の愛をもち 幾百万の民草に
一視同仁隔てなき 聖旨行ふ尊ふとさよ
- 5、不眠不休に絶へ間なき 保安化育の我任務(つとめ)
高き啓示(さとし)を身に受けて 旭光影に照り映えば
偷安(とうあん)の夢何時か醒め 鉄腕火あり響あり
- 6、されば吾友叫ばずや 此処台北の南(みんなみ)に
老幹疎松の霊にふれ 朝(あした)警世の書を開き
夕降魔の剣を練る 吾練習所の生活を

(附録)「椰子の実みのる」曲譜

(第五輯では、98 頁に曲譜に一番の歌詞をつけたものを写真掲載したが、本 HP では省略。)

(以上)

¹² 台湾の HP「古い記憶のメロディー」〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉で、歌詞を見つつメロディーを聴くことができる。〈<http://www.youtube.com/watch?v=Y47ZCLnV6p0>〉、〈http://www.youtube.com/watch?v=WN4D_LkoAQc〉等参照。(平成 23 年 9 月 6 日一部補正)